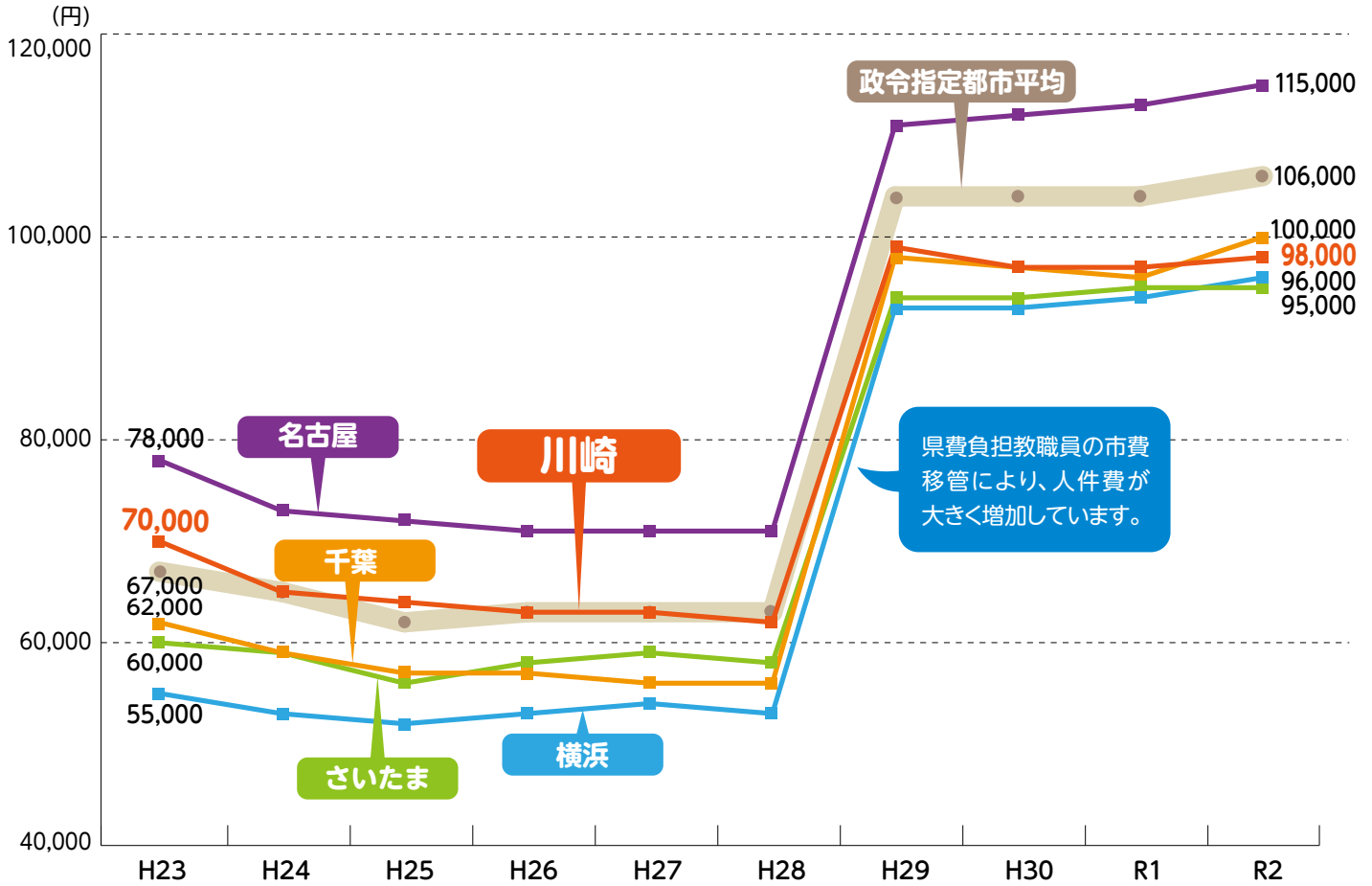


⑨ 人件費は適切な額になるよう見直しに努めています

人件費を他の都市と比べてみましょう。

▶ 市民一人あたりの人件費の推移(普通会計決算)



貸借対照表 (バランスシート)

川崎市では、財政状況をよりわかりやすく説明する取組として、企業会計的手法による財務書類を作成しています。その一つが貸借対照表です。「貸借対照表」は、本市にはどれだけの資産と負債があるのか、現在保有している資産はどのような財源で形成されているのかを表しています。

民間企業会計に準じた財務書類 令和2年度一般会計等決算

資産3兆2,703億円

純資産2兆1,073億円

負債
1兆1,630億円

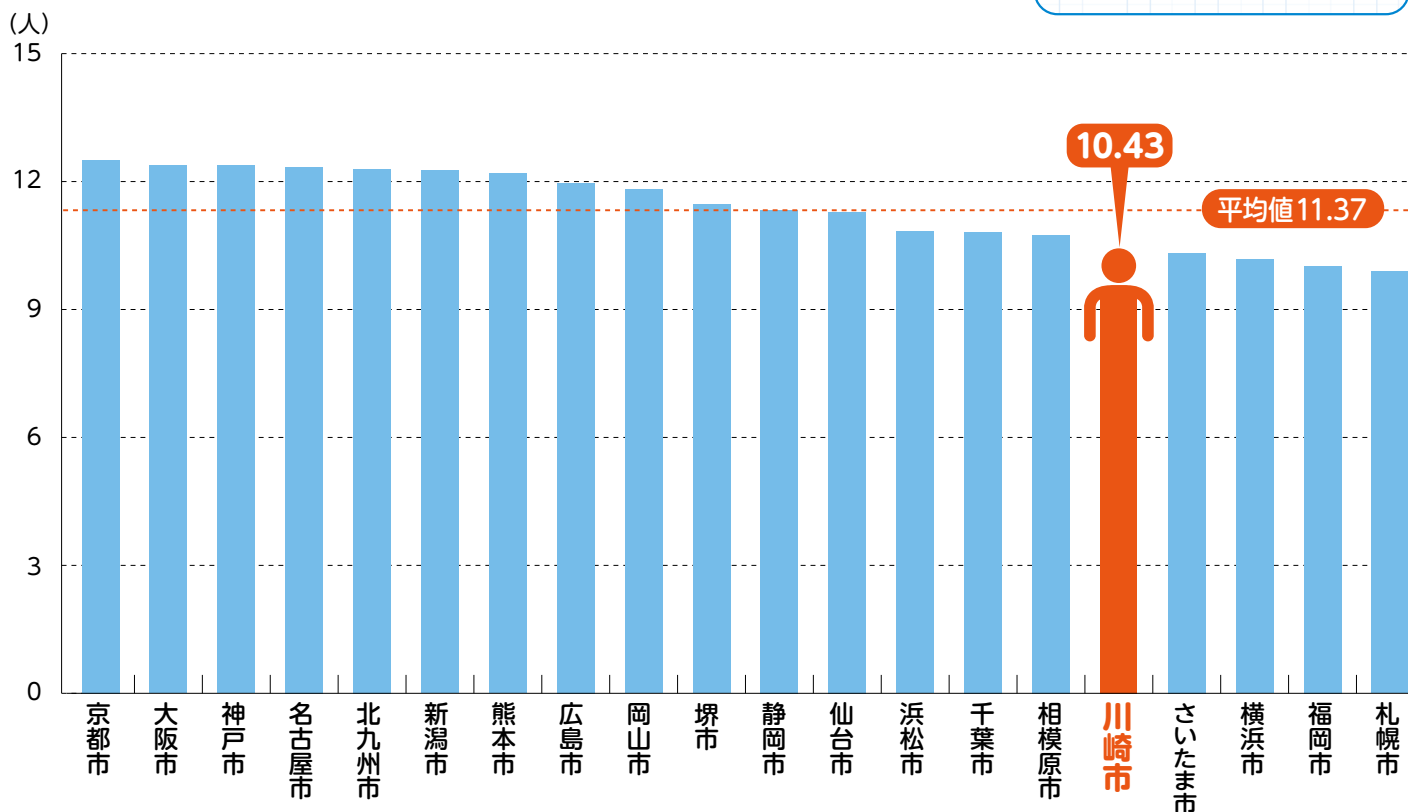
- 資産** 土地、建物、金銭など、市民共有の財産
- 負債** 借入金など、将来に支払いや返済が必要となる債務
- 純資産** 資産から負債を差し引いた残高。借金によらず、過去・現在の負担により形成した資産

※金額は、各項目の億円未満を四捨五入しているため、純資産の金額と資産から負債を差し引いた金額が一致しない場合があります。
※民間企業会計に準じて作成したもので、資産のすべてが売却可能なわけではありません。

職員の数を他の都市と比べてみると…

▶ 政令指定都市人口1,000人あたりの職員数 (令和2年度普通会計決算)

限られた人的資源を最大限に活用し、仕事の方法を工夫して「市民サービス」の質を確保しながら、新しい課題にも対応できるようにするよう取り組んでいます。



財政の健康診断

財政状況をチェックする 4つの指標

地方自治体は、平成19年度決算から財政の健全性を判断するための4つの指標を公表することが法律で義務づけられました。川崎市でもこの指標でチェックした結果、どの指標においても財政状況は健全な状況を維持しています。



実質赤字比率	一般会計などの実質的な赤字を示すもの
連結実質赤字比率	全会計の赤字や黒字を合算し、全体の赤字の程度を示すもの
実質公債費比率	長期の借入金やこれに準じた経費の額の大きさを指標化し、実質的な元利償還費の水準を示すもの
将来負担比率	一般会計等借入金や将来支払っていく可能性のある負担などの現時点での額の程度を指標化し、将来的に財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示すもの